

第4次計画 計画の柱・施策の方向

柱	施策の方向
I あらゆる分野の方針決定過程への女性の参画拡大  	1 企業、地域等の方針決定過程への女性の参画
	2 市の方針決定過程への女性の参画拡大
II 女性が活躍しやすい経済社会の実現   	1 女性の就業・起業支援【女性活躍】
	2 企業における女性活躍の推進【女性活躍】
III 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進   	1 男女が共に仕事と生活を両立できる社会の実現【女性活躍】
	2 多様なライフスタイルに対応した子育てや介護等の支援の充実【女性活躍】
IV 男女共同参画意識が浸透した社会の実現   	1 男女共同参画社会の実現に向けた理解の促進
	2 男性にとっての男女共同参画の推進
	3 子どもの頃からの男女共同参画の理解の促進
	4 防災における男女共同参画の推進
V 女性に対する暴力の根絶など安心して暮らせる社会の実現   	1 女性に対する暴力の防止及び被害者の支援【DV対策】
	2 ハラスメント及び性犯罪等の防止
	3 生涯を通じた女性の健康支援
	4 困難を抱えた女性等が安心して暮らせる支援

現状と課題

方針決定過程への女性の参画

【現状】
 ●市役所の政策決定方針過程への参画は一定程度進んでいる。（審議会等の女性委員参画率、女性職員の管理職数等）
 【課題】
 ●地域における女性の参画（自治会等における女性比率）についてあまり変化がない。
 ●国際的にも、ジェンダーギャップ指数が146国中116位と低い水準にある。特に政治分野が低く、本市も政令市平均並みではあるが十分とは言えない。

女性が活躍しやすい経済社会

【現状】
 ●女性の就業率は全年代で上昇傾向にある（M字カーブの解消）。
 ●イクボス取組みへ理解を示す企業が増加している（「北九州イクボス同盟」加盟企業の増加）。
 ●結婚、出産、育児に関わらず「女性がずっと職業を持つ方が良い」という考え方が増加している。
 【課題】
 ●人口減少、少子高齢化、生産年齢人口（15歳～64歳の人口）の減少が進んでいる。
 ●全国的に、民間企業の女性管理職割合は上昇傾向にあるも、依然として低い水準となっている。
 ●職場における男女平等達成感について前回調査時よりやや改善するも依然として水準は低い。
 ●女性の給与水準（常用雇用者）は、男性の約3/4となっている。
 ●男性と比較して女性の正社員比率が低い。

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

【現状】
 ●男性の育休取得に肯定的（とったほうが良い）な考えが増加している。また、男性の育休取得率も増加傾向にある。
 ●共働き世帯数が片働き世帯数を上回り、その差は広がっている。
 ●保育所・学童保育クラブ等子育て環境の整備充実は政令市トップクラス（NPO法人がリテ大手前 評価）
 【課題】
 ●ワークライフバランスが「とれている（調和派）」の割合が微減。特に30、40代の男性は割合が低い。
 ●男性の家事・育児時間について増加傾向にあるも、女性と比較すると依然として低い。

男女共同参画意識

【現状】
 ●性別による固定的役割分担意識は大きく薄れている。
 ●「ジェンダー」や「男女共同参画社会」等の認知度が全体的に増加した。
 【課題】
 ●家庭、職場、地域など様々な分野における男女平等感が全国平均より低く、前回調査から変化がない。

DV、健康、困難

【現状】
 ●DV認識が全体的に向上するも、精神的DVの認識が十分ではない（大声でどなる、監視する、無視など）。
 【課題】
 ●がん検診の受診率は依然として低い。
 ●10代の人口妊娠中絶率が全国に比べて高い。
 ●コロナ禍で困難な問題を抱える女性が顕在化した（孤独・孤立対策や困難女性の支援の取組が進みつつある）。